

封筒に秘めし言葉の 姫りんご
野に咲く花は 身を尽したり

令和五年二月九日

大中臣正比呂



便箋に書かれた美しい文字は、その人の暮らしぶりも告げているのだろう。

久しく会わない面影を野辺に広げ、海辺の漣みおツ串くしに棹さしきして

留めようとしてみるが、まあ、上京の日を待つしかあるまい。

諸兄よ、消えゆく日々を追えば蜃気楼である。

今まさに欲すれば陽は射しきたり、更に雨もよし。

美酒あらば、月も愛でたい。